教育改革を支える基盤として 教育システム情報学に何ができるか？

21世紀型スキルの育成を念頭に置いた教育改革が今まさに実施されようとしています。教育改革では21世紀の知識基盤社会で求められるスキルとして、情報創造力、批判的思考力、問題解決力、コミュニケーション力、プロジェクト力、ICT活用力等が掲げられています。これらのスキルを初等中等教育から高等教育を通して持続的に育成するためには、データの共有や評価をはじめ、教育・学習の様々な側面で、情報技術による支援が必要不可欠となります。

教育システム情報学の分野では、これまで21世紀型スキルで挙げられている能力に焦点を当てた研究が多くされてきました。教育改革により、それらの成果が現場で実際に求められるものとして、これまでよりも一層、大きな社会へのインパクトを与える機会であるとも言えます。

本パネルセッションでは、最先端の情報技術、実践方法を理解するとともに、教育システム情報学でなされている研究が教育改革という社会的な大きなニーズに応える基盤として働くために、どのように発展させていくか、どのように運用していくか、についての課題について議論します。

司会：

仲林 清 (千葉工業大学)

パネリスト：

池田 満 (北陸先端科学技術大学院大学)

小松川 浩 (千歳科学技術大学)

須藤 祥代 (千代田区立九段中等教育学校)

田村 恭久 (上智大学)